

アクアピア安曇野の敷地内で見れるどんぐりのなかまたち

アクアピア安曇野の敷地内に植えられたどんぐりの木は、山林の研究で世界的に有名な宮脇昭横浜国大名誉教授、当時長野県自然保護センター長の指導のもとに平成9年に植えられたもので、約15年が経過して高い木は15メートル程に成長しています。宮脇先生は、その地域に適した植樹をすることがベストであるとの持論を述べられており、この地域のあったコナラやクヌギが植えられました。犀川の砂礫層が介在する地域で、条件が悪いにもかかわらず生育が早く、立派な雑木林が形成されました。この雑木林には様々な生き物が生息しています。とくに雑木林を好む小鳥が訪れ楽しませてくれます。



処理場の周囲約1000メートルにコナラやクヌギ等のどんぐりのなる木が植えられています。

環境に配慮した取り組み

1 巣箱の設置



雑木林に巣箱を設置したところシジュウガラが巣をつくり巣立っていきました。

2 えさ台の設置



えさの少ない冬に設置したえさ台に野鳥がやってきます。クロツグミはリンゴが大好物みたいで、えさ台に置くすとすぐ食べにやってきます。

アクアピア安曇野の植栽



どんぐりは葉を落とさず冬を越しました？

一昨年、管理棟周辺で拾ったどんぐりを所長室で育てていますが、20cm〜30cm位になりました。なぜか、落葉しないで冬を越しました。不思議です？

どんぐりのかたち	葉のかたち	樹皮
こなら (小楡) 実は細長く約1.5cmぐらいになります。  	  <p>葉にはすどい鋸歯狩り、葉の上半部が幅広く裏は灰白色です。ミズナラの別名「オオナラ」に比べ葉が小さいのでコナラと呼ばれました。たいがい黄色か褐色に紅葉し里山の秋を彩るが、なかには真っ赤に紅葉するものもある。</p>	 <p>樹皮は灰褐色で縦に大きく不規則な裂け目が入り、その樹液には甲虫類が集まると言われる。昔はまきや炭材によく使われた。</p>
くぬぎ (栲、櫟) 実はまん丸で、直径2〜3cm 殻斗のりん片はそりかえる  	  <p>葉は細長く、ふちに針のようにとがった鋸歯があり、やや皮質、葉のうらは灰緑色。なお、クヌギの鋸歯には葉緑素が無い(緑色ではない)</p>	 <p>樹皮は灰褐色で不ぞろいに割れ目が入る。枝は太めで少なく、枯れ葉は落ちにくい。この木の樹液には、カブトムシやクワガタが集まるため、子どもたちにも人気の木である。</p>
しらかし (白櫟) 実は1年で実る。殻斗はよこしま状の模様  	  <p>シラカシの葉の裏はロウ状でライターの火を近づけると溶ける。敷居をこするとすべりが良くなる。</p> <p>葉は細長く、鋸歯縁がシラカシの特徴。形状は、ウラジロガシのそれによく似るが、こちらの葉裏は灰緑色である。</p>	 <p>樹皮は青みを帯びた灰黒色、割れ目がなくざらざらしている。枝葉はよくしげり、高さは10m〜20mになる。幹の上の方に枝を張り若い芽は紫色に近い褐色</p>